

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:4 事業名:放課後子ども環境整備事業費補助金

○補足説明

説明者職・氏名	説明内容
課長 下條 勝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数と放課後児童クラブ登録児童数について、人口規模類似県と比較したところ、児童数に対する放課後児童クラブ登録児童数の比率は、この9県の中では一番高い。</li> <li>・放課後児童クラブと放課後子供教室との比較について、対象となる児童は、放課後児童クラブは保護者が昼間家庭にいない児童だが、放課後子供教室は全ての児童である。また、目的は、放課後児童クラブは遊びや生活の場の提供であるが、放課後子供教室は学習や体験活動の提供である。指導者については、放課後児童クラブは研修を修了した放課後児童支援員だが、放課後子供教室は特別な資格はない。</li> </ul>

○再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小ロアドバイザー 小澤アドバイザー 村上アドバイザー			

## 「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:4 事業名:放課後子ども環境整備事業費補助金

アドバイザー	評価区分	評価内容
小口アドバイザー	「要改善」	クラブ数が目標を上回っており、待機児童解消のために成果を上げている。 今後は、放課後子供教室との一体化も視野に入れ、放課後児童クラブの質の向上に取り組んでほしい。 ・今まで以上に児童に目が届きケアができる体制を目指し、1クラブあたりの児童数の適正な規模を検討しながら、今後、整備を進めてほしい。 ・放課後児童支援員認定資格研修の受講に地域差があるので、受講率の向上に取り組んでほしい。 ・エアコン設置が増えているが、ほとんどの施設でエアコンが必要だと考える。また、エアコン以外でも全県的に何か設置する必要があるかなど、市町村からの申請を待つだけでなく、全県の状態を把握している県の方から市町村に働きかけてほしい。
小澤アドバイザー	「現行どおり」	事業の実施状況が109%と成果を上げており、放課後児童クラブ登録児童数も増加していることから、このまま継続してほしい。
村上アドバイザー	「要改善」	待機児童がゼロではないので、ゼロになるまで継続してほしい。他県との比較で放課後児童クラブ登録児童数が多いのは評価できる。人材確保にも引き続き取り組んでほしい。